

平成 26 年 11 月 27 日

広島市の土砂災害レポート

調査日：平成 26 年 11 月 25 日(火)、26 日(水)

調査場所：広島県広島市安佐南区八木地区

参考資料：中国新聞年アルファ、被災者のお話、その他インターネット資料

被災日時：平成 26 年 8 月 20 日(水)未明

【広島市土砂災害の概要】

人的被害：死者 74 人

(被災者 3,570 世帯 8,692 人＝平成 26 年 11 月現在の被災者台帳による)

土砂量：36 万立方メートル(推計)

はじめに

災害・被災という言葉から何を想像されますか？

ほとんどの方々が地震・津波を想像するのではないのでしょうか。

私も今回の災害を知るまで被災というと地震や、津波による被害のイメージばかりでした。ただ、土砂崩れについては、同じく平成 26 年 8 月 16 日静岡県浜松市天竜区龍山町で土砂崩れが発生し、国道 152 号線が通行止めとなる災害が発生したばかりで、今回の広島での土砂災害もとても他人事とは思いませんでした。

そんな中、広島土砂災害について調べていると、気になるニュースを見つけました。平成 26 年 8 月 23 日『ウェークアップ！ぷらす』のなかで、被災地の状況を伝えるレポーターが「県営住宅は崩れていない。コンクリートでできているので被害がない。周辺の木造の住宅が被害を大きく被っている。」という内容のレポートでした。土地活用の一つとして GS マンションを提案する際に、災害に強い鉄筋コンクリート造。という説明をしている者として、実際に現地でも状況を目で見て伝える責任を感じたことが、以降にまとめる視察を実施したきっかけです。

今回の現地視察テーマは、構造による被災建物の被害状況の違いを確認。鉄筋コンクリート造は本当に災害に強いのか？ということを確認する事でした。

今回の広島土砂災害で、最も被害の大きかった安佐南区八木を訪れました。近くまで行き、最初に感じたことは便利施設が多く、想像していたよりも市街地であるということです。土砂災害というと人口の少ない山奥でのイメージがあったため、驚きがありました。

被災のニュースによく登場した県営住宅以外にも、一般の家屋はもちろん、賃貸アパート、賃貸マンションから分譲マンションまで、さまざまな建物が建ちならんでいました。

また、現地では3ヶ月が経過したいまでも、土砂の撤去作業などが行われており、復興までには時間がかかることを実感しました。



【土砂崩れのあった現場】



【新築アパートの跡地(写真中央)】

近隣で被災された男性の方から話を聞くと、「これでも道路の土砂が無くなり、車で通ることができるようになったため、だいぶましにはなった。それもほんの数日前のことだけだね。」とのことでした。

被害について聞くと、上記写真の右中央の部分に「新築のアパートがあった。土砂崩れの少し前に完成して、満室だったが入居者全員が亡くなってしまった。よくテレビでも紹介される子供を身ごもった新婚さんが住んでいたのもここだった。本当に気の毒だった。」(近隣男性)

建物の残っている県営住宅について伺ってみると、



【県営住宅写真】



【県営住宅隣の集会所(鉄筋コンクリート造)】

「県営住宅は、土砂が直撃したところ。住人は、県が指示して他の県営住宅とかに引っ越したみたい。ただあの土砂でよく残ったと思う。道を挟んだ北側に一般の住宅があったが潰れてしまった。端の弱い部分は若干削れているが、鉄筋の建物は強いなあ。下に行くとわかるが、この建物の南側にある家の被害が少ない。この県営住宅が壁になったおかげだろうなあ。

下に行ったところに別の鉄筋の建物があるが、1階は土砂が入ったみたいだけどな。上の階は人が住んでいるよ。」

実際に見に行ってみると…



【鉄筋コンクリートマンション写真(左：建物南面・西面、右：北面)】

鉄筋コンクリート造4階建ての賃貸マンションがありました。1階部分に業者さんが入り工事をしている真っ最中であつたため、話を聞いてみると、「いま一階の内装工事中。2階以上はそのまま人が住んでいるよ。工事は

ウチで全部決まっているから。」と教えてくれました。やはり、窓の部分からの土砂流入は、構造が鉄筋コンクリートでも防ぐことができなかったようです。ただし、リフォームをし再度賃貸できることを知って一安心しました。

その後、すぐ北側の木造賃貸アパートを見て愕然としました。



【木造アパート(左)と鉄筋コンクリートマンション(右)写真】



【別角度から上記2棟の写真】



【木造建物詳細写真】

木造建物の1階部分は損傷がひどく、2階の入居者もいませんでした…。今後こういった工事をするのか、または解体となってしまうのか気になりましたが、当日は業者の姿はありませんでした。

その他にも視察にて、災害の状況を見て回り多くのことを感じる視察となりました。ぜひ、別紙の写真資料も合わせてご覧ください。

視察を終えて…

結論

鉄筋コンクリート造の建物は、災害に本当に強い

以上です。

お客様に賃貸住宅を提案する際に、表面上の収支について考えてしまいがちですが、様々なリスクがあるなかでそのリスクをいかに回避・抑制していくべきなのか考えさせられる視察でした。

現地で私が一番に感じたことは、強い建物を建て備える必要性です。